

## 第3章

## 準動詞

**時** 制が理解できれば、次は文と文をつなぐ働きをすることが多い準動詞の理解が必要になってくる。準動詞とは、**to不定詞・分詞・動名詞**の3つのことを言う。

to不定詞と言えば、中学校の英語の授業で「～するために」という表現は、to不定詞を使って**to do**～で表すということを教わるだろう。その通りではあるが、もう少し応用して、「○○が～するために」というように、いわゆる〈to不定詞の意味上の主語〉が入る場合はどうなるのか。あるいは、逆の「～しないように」は英語でどう表すのか。これに対する即答が返ってくる学習者は少ない。ある程度英語が得意な人でも、堅い表現ばかりを書く傾向がある。この章からは、口語体・文章体という文体の問題も少しずつ意識するようにしたい。

もちろん、伝統文法の説明だけでは理解できない項目もある。**to不定詞の名詞用法も動名詞も「～すること」と訳せるが、両者はどう違うのか**という問題もその一つだ。英文法をしっかりと勉強している人ほどはまってしまう事柄もある。**be to不定詞や分詞構文**などがそうである。

伝統文法の説明のままでよいが、一般の学習者もいまひとつよくわかっていないと思われる項目もある。英語学の専門用語になるが、〈**タフ移動**〉の構文や**現在分詞と過去分詞**の区別などである。

この章では、英作文で学習者がよく間違える項目の中で、**to不定詞・分詞・動名詞**に関係するものをまとめてみた。

## ● 文法運用力チェック ●

- 1. 「～すること」を意味するto不定詞を主語にしてはいないか? ⇨ §39
- 2. 動詞の目的語をto不定詞にする場合と動名詞にする場合の違いがわかっているか? ⇨ §40
- 3. would like to do～という熟語のwouldはなぜ必要なのか? ⇨ §40
- 4. the habit of doing～とは言うが、the habit to do～と言えないのはなぜか? ⇨ §41
- 5. give up doing～をただ「～することやめる」と思っていないか? ⇨ §41
- 6. 「(主語)は～することだ」という場合の「～することだ」の部分をto不定詞でも動名詞でもどちらでもよいと思っていないか? ⇨ §42
- 7. 「〈人〉が～するために」を訳すとき、in order for sb to do～やin order that sb may do～を多用していないか? ⇨ §43
- 8. 「～しないように」を、not to do～だと思っていないか? ⇨ §43
- 9. in case SV～を「～するといけないから」という日本語で覚えていないか? ⇨ §43
- 10. 〈予定〉と言えばbe to不定詞だと思っていないか? ⇨ §44
- 11. 形容詞的に使う現在分詞(-ing)と過去分詞(-ed)の区別が付くか? ⇨ §46
- 12. 作文で分詞構文を乱用していないか? ⇨ §47